

和歌山県社会保障推進協議会第29回総会開催

社会保障の改善に向け、社保協として全力を尽くそう

11月21日、和歌山県社保協の第29回総会が行われました。今年はコロナの影響で規模を縮小して行い、12の団体から18名が参加されました。主催者挨拶で、琴浦代表幹事は、「今の政治はとても強権的な姿勢を続け、これまで多くの社会保障が削られてきた。社会保障改善に向けて、社保協として全力を尽くしていこう」と話されました。



総会の方針提案・19年度決算、20年度予算案は、賛成多数で採択されました。その後の討論の中で、県医労連からは現在取り組んでいる医療・介護従事者への支援を求める署名のお願いを、橋本伊都社保協の父川さんからは、毎月行っている事務局会議や消費税引き上げ反対等の宣伝行動、75歳以上の窓口負担引き上げ反対運動といった活動状況を

話して頂きました。

★二宮厚美 神戸大学名誉教授の熱の入った記念講演

菅政権は「敗戦処理のピッチャー」

特別記念講演会では、「コロナ禍の経験をふまえ、社会保障政策の転換を」と題し、神戸大学名誉教授の二宮厚美先生に熱弁をふるって頂きました。感染症対策のために、ZOOMによる配信も行いました。社保協禁句ブロックのご協力を頂き、近畿各県社保協等にも配信させて頂きました。参加者は会場が32名、ZOOMによる参加が 名でした。二宮先生は、今の菅政権を野球の試合にたとえ、「現在8回で敗戦濃厚だった安倍前首相から引き継いだ敗戦処理のピッチャー」と、皮肉を込めた言葉で表現しました。

また菅首相の所信表明演説を3回読んだが、何をしたいのかさっぱりわからなかったと二宮先生。ペーパーをそのまま読んで答弁を行っている様子には、「国民に自己責任を押し付けているが、答弁ではペーパーに頼らず自己責任で行って欲しい」と皮肉り、会場から笑いの声が起こりました。



★「新自由主義のツケがコロナで回ってきている」と社会保障削減に警鐘

二宮先生は、大阪で計画されていた都構想の問題なども例に挙げ、「大阪では、新自由主義の下で保健所の統合が進み、医療の受け皿を減多切りにした結果、医療崩壊の危機性が一番高くなっている。そのツケがコロナで回ってきている」と強調し、新自由主義の中で行われてきた社会保障削減に警鐘を鳴らしました。この新自由主義は、人が普通に生活していくのに欠かせない職業

である医療・介護従事者といった、いわゆるエッセンシャルワーカーも削ってきていましたが、コロナ禍でもう一度エッセンシャルワーカーを大事にしようという動きがアメリカから出て来ると、二宮先生は指摘。その動きを日本でも広げ、エッセンシャルニューディール（まき直し政策）を掲げました。

★全世代型社会保障の落とし穴 「国の施策や言葉にだまされないように」

二宮先生は続けて、全世代型社会保障の看板化が2017年頃から始まり、その後の政府の政策について振り返りました。二宮先生は、「人生100年時代とか生涯現役という言葉にだまされていませんか？」と参加者に問いかけ、これらが押し進められる事で、高齢者の捉え方が変わり、退職や年金といった年齢基準が後ろ、後ろへとどんどん下げられ、大きなお金が動く所を圧縮しようとしていると指摘しました。

最後に現在の菅政権を、「安倍前首相から負けゲームの処理を託された、物理的に早く終わる政権」「安倍政権を引き継ぎ同じ路線である敗戦路線を歩んでいる」事などから、「世論の高まりに追い込まれるか、野党の力で政権を取るかは分からないが、短命政権で終わる」と評価し、参加者には、国の施策や言葉にだまされないようにと訴えました。



(感想アンケートより)

- ◆たいへん面白かったです。菅短命政権の宿命という事がよく分かりました。学び、世論を盛り上げ、短命にすべくがんばろうと思います。
- ◆「現在8回で敗戦濃厚だった安倍前首相から引き継いだ敗戦処理のピッチャー」「答弁ではペーパーに頼らず自己責任で」という、今の菅政権を端的かつユーモラスに表現していて、話が入りやすかったです。また、我々が国にだまされない為の学習もしっかりとできました。
- ◆大変分かりやすく、そしておもしろい講演でした。安倍にスガリ、安倍がスガった菅政権。安倍のしりぬぐい、安倍を守る為の政権で、まともな政策を持っていない事がよく分かりました。
- ◆時間が少し足りなかったように思いますが、ユニークな口調で、つい聞き入ってしまいました。「アベ政権」を継承するとはっきり明言している非常に危険な「スガ政権」の動きをしっかり見て、反対すべきところは強く意思表示をしていきたいと思えます。
- ◆いくたびも 秘書官「公助」 政事始
自助できぬ 差し出すメモや しぶり雪
安倍川餅 一皮むけば スガ継り
講演聞き、3句出来ました。